

一 般 演 題

1. ^{123}I -BMIPP シンチグラフィにおける心筋摂取率の検討

百瀬 満 小林 秀樹 牧 正子
日下部きよ子 (東京女子医大・放)

^{123}I -BMIPP (BMIPP) 心筋摂取率 (MU) の意義について検討するために、肥大心を含む虚血性心疾患 21 例 (年齢 61 ± 8.0 歳, 男性 16 例, 女性 5 例) を対象にブレンダー正面像から BMIPP 心筋摂取率を算出し、血糖 (BS)、中性脂肪 (TG)、遊離脂肪酸値 (NEFA)、安静時 ^{201}Tl 心筋 SPECT における defect score (DS)、断層心エコー図から求めた心筋重量 (LVM) との関連を検討した。MU は BS、TG、NEFA、DS と関連は見られなかったが、LVM が高い症例ほど高値を示した ($r=0.68$, $p<0.01$)。BMIPP の単位心筋あたりの摂取率 (MU/LVM) は LVM が高いほど低値であり ($r=-0.671$, $p<0.01$)、脂肪酸代謝との関連が予想されるが、この病態については今後の検討を要する。

2. 虚血性心疾患における負荷 BMIPP シンチグラムの有用性

細井 宏益 山崎 純一 山科 久代
松川星四郎 蒲野 俊雄 飯田美保子
森下 健 (東邦大・一内)

負荷 BMIPP SPECT を Tl との dual mode にて施行し、虚血性心疾患症例の心筋虚血ならびに心筋 viability 評価における有用性を検討した。対象は虚血性心疾患 17 例 (陳旧性心筋梗塞 8 例, 梗塞後狭心症 2 例, 安定狭心症 7 例) で、全例に運動負荷またはジビリダモール負荷を施行し、2 核種同時投与、dual mode にて撮像した。評価は視覚的に行った。Tl における再分布と BMIPP における fill in の比較では、Tl、BMIPP とともに 17 例中 10 例に再分布あるいは fill in を認めた。このうち 7 例においては、ほぼ一致した所見が得られた。欠損範囲の比較では、初期像において Tl の欠損域がより広範であったもの 4 例、BMIPP が広範であったもの 5 例、両者がほぼ同等であったもの 7 例であった。遅延像において

もそれぞれ 4 例, 5 例, 7 例と同様の結果が得られた。初期像、遅延像ともに所見の一致をみたものは 4 例であった。今後なお検討すべき点はあるが、負荷 BMIPP SPECT 単独で心筋虚血を評価し得る可能性が示唆された。

3. 虚血性心疾患における ^{123}I -BMIPP の評価 ——とくに壁運動との関係について——

富永 伸徳 川井 三恵 八木 秀憲
松井 隆 原 正忠
 (東京慈恵医大・四内)
守谷 悦夫 森 豊 川上 憲司
 (同・放)

冠動脈造影、左室造影を施行した虚血性心疾患 28 例を対象として、安静時 ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT 像と壁運動の関係について比較検討した。その結果、壁運動異常領域の検出率は 85.5% (47/55 領域) と高値を示した。次に、壁運動を正常群 9 例と異常群 19 例の 2 群に分け、各群における冠動脈病変の SPECT による検出率の差について検討した。壁運動正常群における有意狭窄病変の検出率は 14.3% (2/14 枝)、異常群では 57.1% (16/28 枝) であった。これらの結果より ^{123}I -BMIPP は有意狭窄病変よりも壁運動異常を反映していると考えられた。

4. ^{123}I -BMIPP による右室描出

池上 匡 齊藤 節
 (横浜南共済病院・放)
川本 雅美 松原 升 (横浜市大・放)

われわれは ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT 像において、著明な右室描出を示した原発性肺高血圧症の一例を経験した。著しい右心系の拡張と肺動脈圧の上昇 (79/37 mmHg) を認め、BMIPP および ^{201}Tl による右室描出、 ^{123}I -MIBG による淡い右室描出、mottled type の肺血流シンチ像が核医学検査の結果として得られた。しかし、BMIPP による右室描出は本例に特異的な現象ではなく、続いて施行された Eisenmenger 化した VSD、